

令和2年産「環境にやさしい佐渡米づくり」カレンダー

田んぼの生きものたちと育む 「おいしさ」と「みばえ」を兼ねそなえた 日本一の佐渡米

作成 JA佐渡 監修・協力 佐渡農業振興連絡会稻作振興会 (生きもの写真撮影 服部謙次)



この表紙の「生きもの」は、佐渡の田んぼの生きもの調査で確認された生きものたちです。図鑑を参考に他の生きものも探してみましょう!

佐渡は日本で初めて
世界農業遺産
に認定されています



岩首昇竜棚田

農家が守る「安心・安全」と「生きもの達」の世界…



J A 佐渡米憲章

～日本一安心・安全でおいしい農産物の島「佐渡」の実現に向けて～

豊かな植生に恵まれた自然あふれる佐渡では、古くから米づくりに取り組み島民の食を守り続けてきました。また400年以上続いた佐渡金銀山に代表される佐渡の歴史は、現在の棚田を含む優れた景観と伝統を作り上げました。

一方で平成20年9月には、朱鷺の野生復帰が実現し、朱鷺の餌場としての水田の役割が再確認され、生きものを育む農法など、今日の生物多様性農業の実践に結びつきました。

これらの取り組みは、消費者の共感に繋がるとともに、世界農業遺産に先進国としては初めての認定を受けることとなりました。

『日本一安心・安全でおいしい農産物の島』を目指すJA佐渡は、米の品質と食味はもちろんのこと景観や環境対策においても、日本の水田農業のトップランナーとして、農業の価値を高めることに努めています。

このため、生きものを育むまなざしを持ち続け、佐渡島の豊かな自然環境と農村に伝わる文化を守りながら、未来の子供たちに佐渡のおいしい米を受け継ぐことを基本に据え、生産者・関係団体が一体となって次の事に取り組んでまいります。

- 一. 安心・安全を第一とした米づくりに専心します
- 一. “おいしさ”と“みばえ”を兼ね備えた米づくりに取り組みます
- 一. 田んぼとその周辺で生きものが育まれるよう努めます
- 一. 田んぼの多面的機能の発揮と里山の保全に取り組みます
- 一. 田んぼ環境の保全への理解者である消費者との輪を広げるため、交流活動を積極的に取り組みます
- 一. 地域に伝わる文化・伝統・芸能を大切にし、郷土愛を育み、佐渡の美しい水田環境を次世代につなげていきます

平成27年3月7日「佐渡米生産者大会」

- ・『需要に応じた米つくり』で地域ブランドを支えましょう!!
- ・『生きものと共生』する『環境にやさしい佐渡米つくり』を進めましょう!!

1

JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
			1 元旦	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13 成人の日	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2

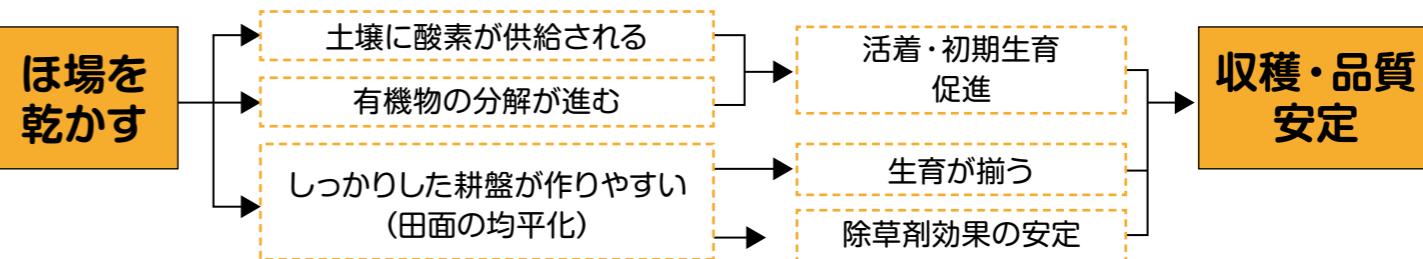
FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 建国記念日	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	29

1. 乾土効果で栽培期間全体の栄養確保（耕種的土づくりの実践）

● 入水時期を見直し、乾田耕起を実施しよう!!

乾田耕起の効果



Point Point

・耕起はなるべくほ場が乾いた状態で実施 ⇒ 入水時期は4月15日以降!!

○ 良い例



・簡易明渠で
排水を促す

● 悪い例

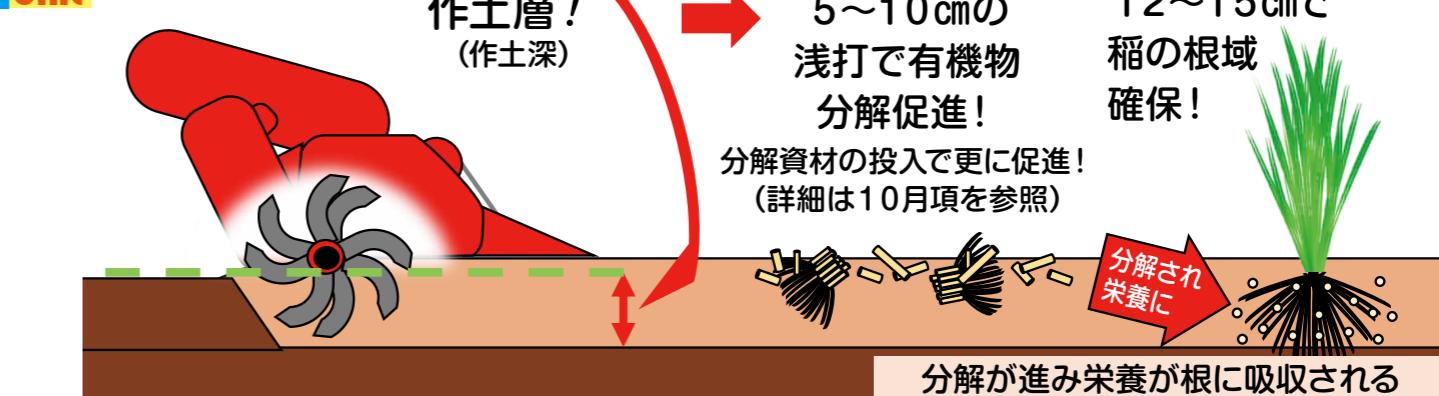


・乾いた状態で耕起し
作業の安定化に

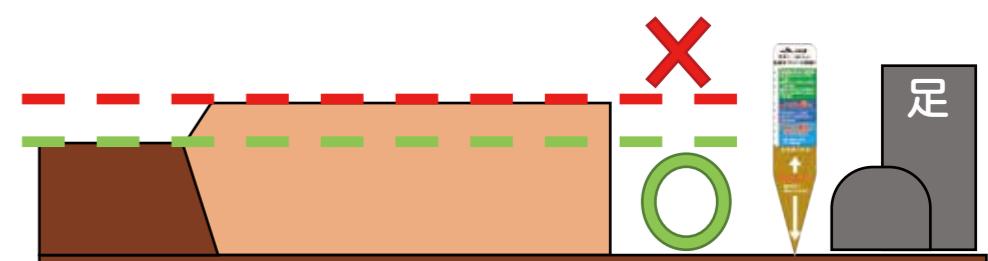
・過度な作業と
旋回による凹部

2. 耕耘のポイント (秋耕・春耕耘)

Point Point



耕耘前の田面
の高さで作土深
を測り耕耘の深
さ設定を行なう



3
MARCH

今月のワンポイントアドバイス 乾田耕起の効果とポイント

- ◆根腐れの抑制 ・田んぼを乾かすことで有機物の分解を進め湛水後の分解で発生するガスや土壤還元を抑えることで根腐れを防止する。
- ◆乾土効果の発現 ・土からの窒素供給量が増加することで、イネの初期生育を促進する。
- ◆耕盤の維持田面の均平化 ・ほ場が乾いた状態で耕起し、しっかりと耕盤を作ることで、代かき・田植え作業の安定化につながる。
・田面の深く大きな凹部は砂等投入し修復・整地しましょう。

予定行事内容: ●…春作業指導会

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20 春分の日	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

※開催・実施内容は予定日です。実際の日程は前後する場合があります。

安心安全 作業の前後に必ずチェックしましょう! 佐渡米生産工程チェックシート

記入方法

- 各チェック項目ごとに作業・確認が実行できたらチェック欄に「○」印を、できなかったら「×」印を記入ください。(実施日のある項目は忘れずに「日付」も記入)該当しない場合はチェック欄全体に「/」(斜線)を引いてください。
- このカレンダーの記載事項は生産者の控えとなります。後日 JA より提出用(清書用)が届きましたら内容を転記して提出してください。

令和2年産 JA 佐渡生産工程チェックシート 共通番号↓

行程	No.	チェック項目	チェック	JA-GAP
準備	3-1	栽培に必要な栽培基準・栽培暦を確認しましたか。 また、研修会等に参加し情報収集を行いましたか。	<input type="checkbox"/>	1
	3-2	万が一の事故やけがに備えて、自動車保険や傷害共済・農業労災等に加入していますか。	<input type="checkbox"/>	4
種子	3-3	【温湯消毒済み種子を使用した方は記入下さい。】 温湯消毒済みの種子の中札(保証票に替わるもの)を保管しましたか。	<input type="checkbox"/>	9
	3-4	【温湯消毒済み種子以外を使用した方は記入下さい。】 指定採種ほ場の水稻種子を100%使用し、種子の保証票を保管しましたか。	<input type="checkbox"/>	10
種子の扱い	3-5	【自分で種子消毒を行った方のみ記入下さい。】 農薬の使用回数・使用量を守って行いましたか。 また廃液は適正に処理しましたか。	<input type="checkbox"/>	11
	3-6	品種毎に種粉袋の色を変えるなど、品種を明確に区分しましたか。	<input type="checkbox"/>	12
全般	3-7	消毒済み種子は、種子伝染性病害防止のため清潔で過湿にならない場所で保管しましたか。	<input type="checkbox"/>	/
	3-8	種苗法等に違反するような自家採種や購入種子の転売、県外への種子の持ち出しなど無いように、適正な管理を行いましたか。	<input type="checkbox"/>	16
保管	3-9	ほ場及びほ場周辺の危険地域を把握していますか。 (危険な場合は一人だけで作業を行わない等)	<input type="checkbox"/>	45
	3-10	農業機械の作業前後で点検は行っていますか。また危険な作業等について把握していますか。	<input type="checkbox"/>	46
一般	3-11	農薬は、農作物や他の生産資材と区別し、鍵のかかる専用の場所等で適切に保管されていますか。	<input type="checkbox"/>	48
	3-12	肥料・農薬の散布等、作業環境に適した服装・防護服・防護用具を着用し安全に作業できるよう対策を講じましたか(農薬についてはラベルの指示に従いましたか)。	<input type="checkbox"/>	49
保管	3-13	肥料袋や農薬のポリ容器等はそれぞれの専門業者委託により適正に処理しましたか。	<input type="checkbox"/>	51
	3-14	使用農薬が水稻に登録があることを確認しましたか。登録失効農薬や使用禁止農薬を使用しませんでしたか。	<input type="checkbox"/>	52
保管	3-15	防護服は着用後洗浄し、農薬と離して保管していますか。	<input type="checkbox"/>	/

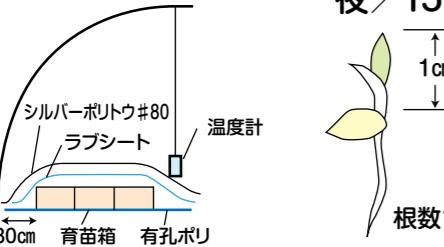
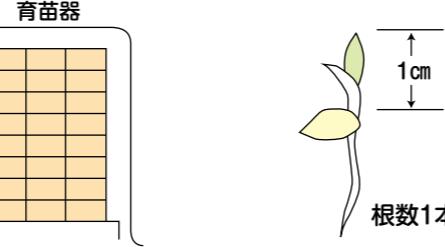
4月

育苗期間中の温度管理徹底で適正苗を作ろう!!

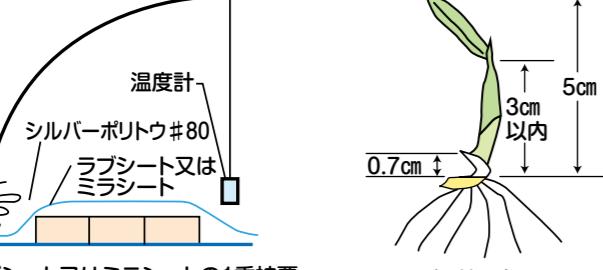


育苗管理のポイント(稚苗)

【出芽期】

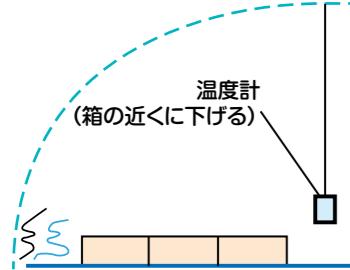
稚苗無加温育苗	稚苗加温育苗
期間:4~6日 溫度 昼/28~30°C 夜/15°C以上  ・シルバーラブ等の2重被覆資材をしわができないように育苗箱に丁寧にかける。 ・播種時に十分かん水する。 ・覆土に持ち上がりが見られたら、かん水し覆土を沈下させ緑化する。	期間:48~60時間 溫度:28~30°C  出来上がりは必ず出芽長1cm 育苗器の上下で出芽長に差があるので注意 出芽状況を確認しながら、温度調節を行う。

【緑化期】(緑化…出芽した苗を日光や温度に慣らすために行う)

期間:3~4日 (温度:昼/20~25°C・夜/15~18°C)
 最低気温が10°C以下になる場合は2重被覆で保護する。 好天時はハウス内の温度が急上昇するので換気し苗ヤケに注意する。 かん水は1日1回を目安に午前中の早い時間に実施する。 ・ラブシート又はミラシートの1重被覆

※プール育苗の入水時期は緑化終了後

【硬化期】(硬化…田植えする前に外気に慣らすために行う)

期間:13~15日 (温度:昼/15~20°C・夜/10~15°C)
夜間低温時や降霜が心配される場合のみ被覆し苗を保護する。 好天の日は朝6時にはハウスを開け、夕方4時頃閉める。 田植え5~7日前は夜間もハウスを開け、外気に慣らす。 2.0~2.2葉で田植えをする。 3.0葉以上になると種もみに養分が残っていないため、見た目は苗が大きいが、活着が遅れ、初期生育に影響する。(老化苗) 

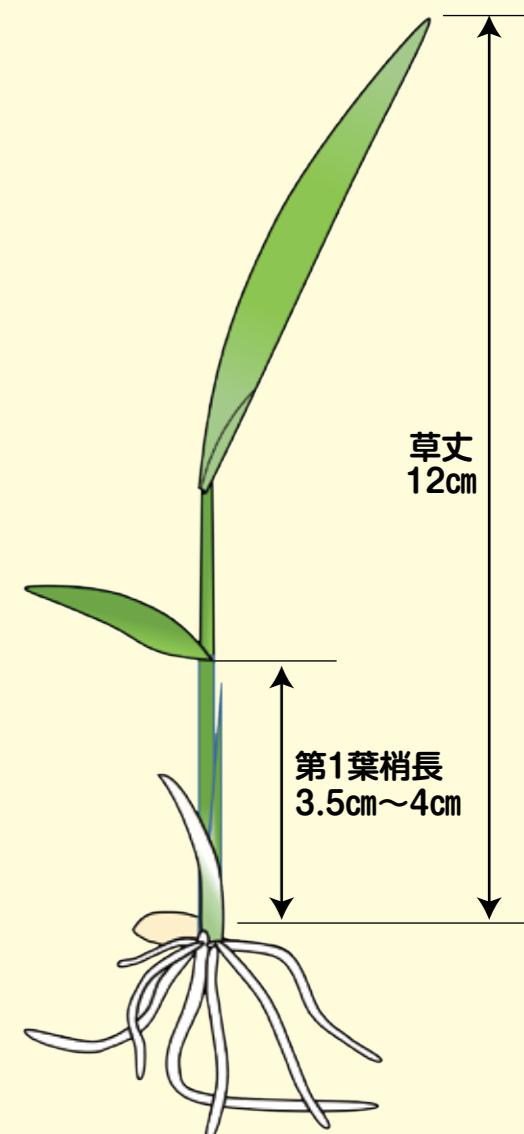
30°Cを超えると細菌性病害が発生しやすくなるので注意

○実際に苗をあてて確認してみましょう!

●硬 化 終 了

- ・草丈⇒12cm
- ・葉数⇒2.0葉～2.2葉
- ・稚苗の育苗期間
加温育苗⇒22日以内
無加温育苗⇒25日以内
- ・1箱当たり乾粉播種量⇒130～140g
催芽粉(160～175kg)

適正な稚苗の姿(原寸大)



●稚苗の特徴

- ・種粉に養分が残っている状態で植えつけることで新しい根がすぐに生え、活着が早まります。

★3葉まで大きくなった苗はどんな影響が…

- 田植時には種粉に養分がありません!
- 田植以降の活着が遅れる。
- 分けつ発生が遅れ、太い茎が十分確保できず細い茎が多くなり、穂も小さく、減収・品質不良の原因になります。

○弁当肥の施用

苗に活力を与え活着を促進するため積極的に活用! 田植えの4~5日前に散布する。
(但し、軟弱徒長苗には施用しない)

・べんとう肥専用肥料(細粒) 1箱当たり15~20g散布

4
APRIL

日々の作業内容をメモして下さい。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29 昭和の日	30		

※開催・実施内容は予定日です。実際の日程は前後する場合があります。

栽培履歴メモ(4月)『コシヒカリ』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
は種	/		
基肥施用	/		
代かき	/		
初期除草剤	/		

栽培履歴メモ(4月)『』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
は種	/		
基肥施用	/		
代かき	/		
初期除草剤	/		

今月のワンポイントアドバイス

- 稚苗育苗のは種日は田植えの20~25日前を目安(4月10日以降)
(育苗日数の適正化・育苗段階から足腰が強く太い稻づくり)
- 弁当肥を積極的に施用
- 耕起なるべくほ場が乾いた状態で実施

注意事項

後期栄養不足の防止対策

低地力や一発基肥等の施肥体系では天候によって早期に葉色が低下する場合があります。
極端な減肥は行なわず、春の土づくり資材等を施用しましょう。

安心安全 佐渡米生産工程 チェックシート

行程	No.	チェック項目	チェック	JA-GAP
整備・点検	4-1	肥料散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 基肥 実施日付 月 日 基肥 月 日	<input type="checkbox"/>	5
	4-2	農薬(除草剤含む)散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 除草剤 実施日付 月 日 除草剤 月 日	<input type="checkbox"/>	6
	4-3	(収穫・乾燥・調製等)作業の開始前に、機械及び設備の整備・点検・故障箇所の修理を行いましたか。	<input type="checkbox"/>	7
育苗	4-4	播種作業前や品種切り替え時に作業所内及び播種機の掃除を行いましたか。また、床土、覆土に糞が残つてないことを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>	13
	4-5	苗を並べる時は品種の取り違えがないよう明確に区分しましたか。	<input type="checkbox"/>	14
本田作業	4-6	田植え前の初期除草剤は「田植7日前まで」の使用制限を守りましたか。	<input type="checkbox"/>	/
	4-7	農薬の使用についてはJAの指導(栽培基準)に基づき、使用時期(収穫前日数)、散布量及び使用回数を守り散布しましたか。	<input type="checkbox"/>	24
	4-8	代かき後の濁水や農薬・肥料施用直後の水田の水を流出させませんでしたか。特に除草剤を使用した場合7日以上の止め水管理を行いましたか。	<input type="checkbox"/>	25

【チェック項目の補足説明】

●水田濁水・農薬溶水の流出防止

ほ場管理が不十分だと農薬等が水系に流出し、水産動植物への被害や下流部での環境汚染が懸念されるほか、用水としての再利用に支障をきたす等、数々の問題を生じることとなります。

畦の定期的な修繕や排水口の適正管理、薬剤処理後の止め水期間の適正管理に努めましょう。

田面を均平にし、水深を安定に保つことも対策の一つです。
特に農薬は、県の指導事項として散布後の落水は7日以降とし河川に流出させないこととなっています。

●田植え前の初期除草剤散布の考え方

初期除草剤は極力使用しない。使用する場合は田植えの7日前までに使用する。



5月

適性苗の田植えと保温的水管理で初期生育をはかろう

～水田除草剤は散布前に必ず使用方法を確認しよう～

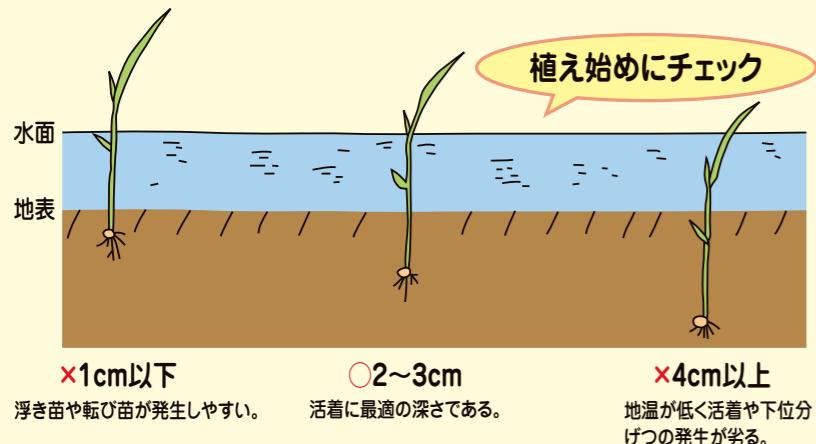
ポイント
Point

初期生育を確保

- ① 田植えは、苗の生育状況（適正苗）に合わせ、好天日に行う。
活着限界温度…12~13°C（日平均気温） ※ 徒長苗・老化苗…14~15°C
- ② 田植えから活着時、低温・強風時は保温的な水管理を徹底
- ③ 初・中期一発剤は田植え後7日以内を目安として送れないように散布する
商品例: 月光 1キロ粒剤 ⇒ 移植時より
月光 フロアブル・ジャンボ ⇒ 移植後3日より
※薬剤の種類、散布の剤型によって使用時期が異なるので注意！

■植え付け深さの確認

●植え付け深さと活着の関係●



【アオミドロ・表層はく離対策】

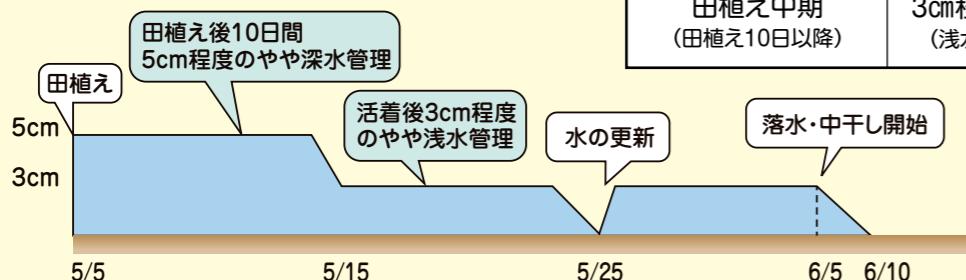
- 田植え後、温度の上昇と共に発生し拡大します。
- 生息密度が高いほ場（前年度発生ほ場による越冬）注意
- 対策!!
 - ・代かき～田植えまでの期間を短縮する。
 - ・初・中旬一発除草剤を発生前に散布する。
 - ・発生後は苗にかぶさる前に軽く干すか、除草剤施用前に水の更新を行う。
(苗の埋没を防ぐ)

田植え後の水管理ポイント ～分けつ促進のために～

ポイント
Point

活着や初期生育の促進には「水温・地温の上昇が必要です！」

- 水の更新は早期に行い、日中は止水として水温を上昇させる。
- 土の中に酸素供給を行い「根の活着化」に努める。

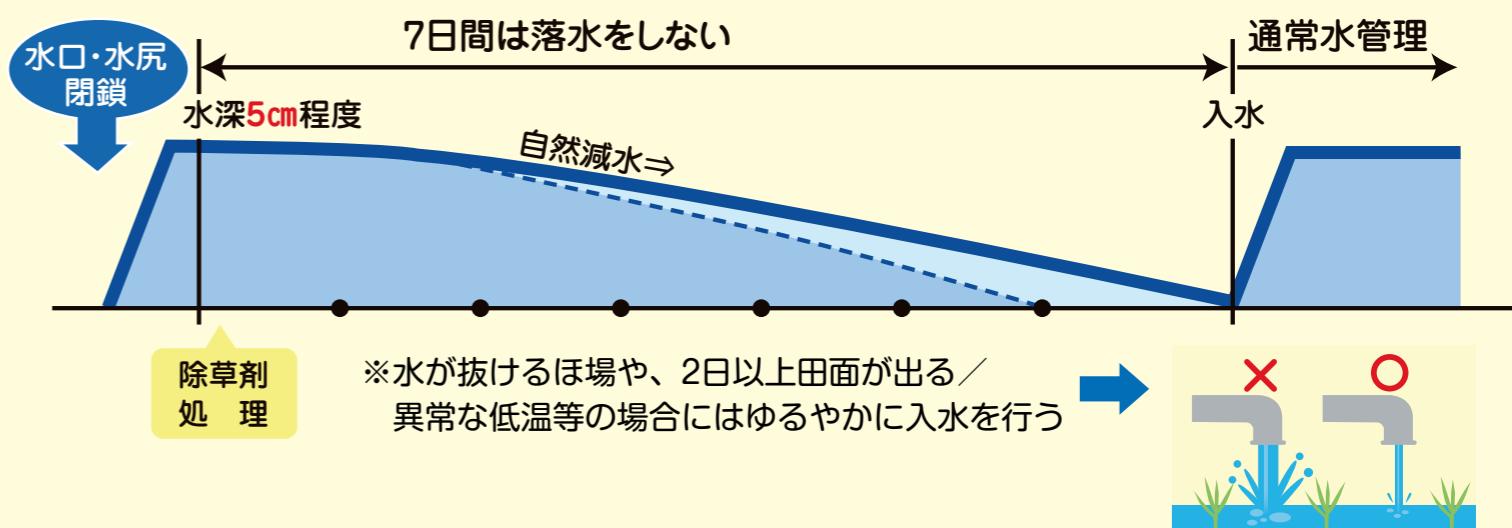


※ワキがひどい場合は
夜間落水・夜干しの実施。

除草剤散布のポイント ～除草剤の効果を安定させるために～

(1) 除草剤散布と水管理のポイント

- ①代かきは丁寧に行い、田面の均平に努める。
- ②※初期除草剤および初・中期除草剤は、田植え後7日以内を目安に散布し、遅れないように適期散布する。 ※ 初期除草剤を田植え前に施用する場合は後述を確認
- ③散布時の水深は、剤型に応じて十分に確保し均一に散布する。
【水深】
 - ・1キロ粒剤………3~5cmを確保
 - ・ジャンボ剤・フロアブル剤………5~6cmの状態を保つ
- ④田植え同時処理の場合は移植後すみやかに3~5cm湛水する。
- ⑤散布後は、極力「水を動かさない」、散布後7日間は止水（落水やかけ流しはしない。）



(2) 田植え前の初期除草剤散布の使用について

※田植え前に初期除草剤は極力使用しない。
使用する場合は、田植えの7日前までの使用を厳守する。



5
MAY

今月のワンポイントアドバイス

- 田植えは天候の良い日に行う。
- 栽植密度の目安は国仲等の平坦地は坪あたり50株、中山間・海岸部等は60株。
- 初・中期一発除草剤の適期散布を。(藻類発生前の散布が効果的)
- 田植えから活着時、また低温・強風時は保温的な水管理を徹底。

予定行事内容: 未来プロほ場情報更新予定 ①…更新1回目 ②…更新2回目

日々の作業内容をメモして下さい。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						②

※開催・実施内容は予定日です。実際の日程は前後する場合があります。

栽培履歴メモ(5月)『コシヒカリ』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
弁当費	/		
苗箱殺虫剤	/		
田植え日	/ ~ / (終了)		
一発除草剤	/		
	/		

栽培履歴メモ(5月)『』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
弁当費	/		
苗箱殺虫剤	/		
田植え日	/ ~ / (終了)		
一発除草剤	/		

安心安全 作業の前後に必ずチェックしましょう! 佐渡米生産工程チェックシート

米の出荷契約関係書類の
提出はお早めに

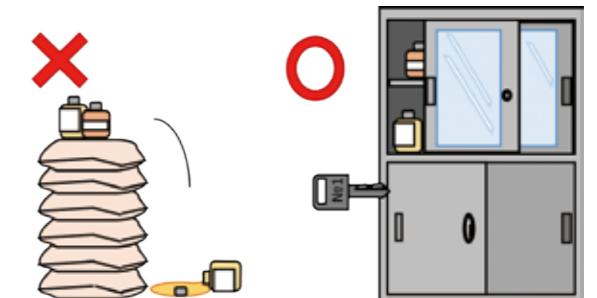
行程	No.	チェック項目	チェック	JA-GAP
整備・点検	5-1	肥料散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 実施日付 基肥 月 日	<input type="checkbox"/>	5
	5-2	農薬(除草剤含む)散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 除草剤 月 日 実施日付 除草剤 月 日	<input type="checkbox"/>	6
の苗購入	5-3	苗の生産履歴(品種・数量・使用農薬とその使用状況)等を確認しましたか。	<input type="checkbox"/>	15
	5-4	使用する除草剤、箱処理剤の使用量、使用時期をラベル等で確認し散布しましたか。	<input type="checkbox"/>	17
耕起・代かき・田植え	5-5	田植え作業前や品種切り替え時に田植機の掃除を行いましたか。(混植の防止)	<input type="checkbox"/>	18
	5-6	一畠に一品種の田植えをしましたか。また補植には同一品種を使用しましたか。	<input type="checkbox"/>	19
出荷契約	5-7	肥料は、JAの指導(栽培基準)に基づき、施用しましたか。	<input type="checkbox"/>	20
	5-8	「JA佐渡米の要件」を知っていますか。	<input type="checkbox"/>	21
本田作業	5-9	出荷契約書及び栽培協定書に必要事項を記入して提出しましたか。 提出期日 5月中旬頃	<input type="checkbox"/>	22
	5-10	農薬の使用についてはJAの指導(栽培基準)に基づき、使用時期(収穫前日数)、散布量及び使用回数を守り散布しましたか。	<input type="checkbox"/>	24
	5-11	病害虫発生予察やJAからの情報を活用して適時適切な防除を行いましたか	<input type="checkbox"/>	29

【農薬の保管】 ●安全・適正な保管場所・方法とは
①専用の鍵のかかる保管庫がある。(強固なつくりで適切な温度条件が保たれ、棚は非吸収性の材質。危険性を警告する表示があるもの。)

②開封した農薬はきちんと閉められており、こぼれないようにしていると共に、万が一こぼれても農薬どうしが混ざらないように工夫されている。

③購入時に入っていた容器のままで保管。(容器が壊れるなど移し替えが必要の際は元容器のラベル表示を書き写すこと。)

④農薬以外のものと区別して保管。(作物に使用するものとそうでない農薬も区別する。)



日本一おいしい佐渡米づくりに向けたポイント

6月

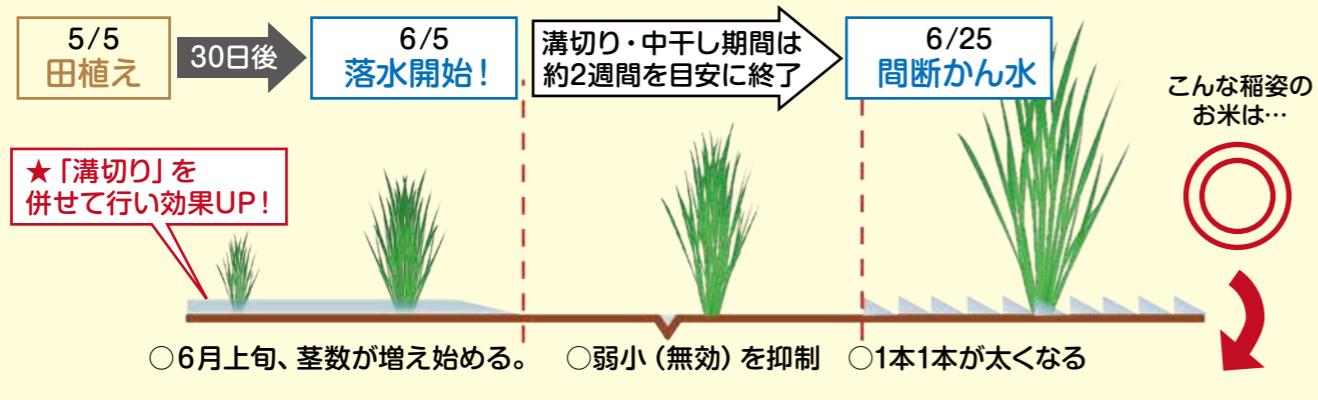
品質向上の分岐点！落水・中干しは6月5日から開始！

～「溝切り・中干し」適期実施で、1つ1つの茎を太く丈夫に育てよう！～

○過剰生育防止のため、田植後約30日(茎数15~16本)を目安に落水開始！！※隣の株との間の条が隠れ始めてからの中干しでは遅い

「中干し」は、無効分けつを抑えることにより、その分の栄養を良い茎へ集約させることができます。また土中へ酸素を供給することにより根を健全にします。この中干しの効果により、倒伏の防止や品質の向上へつながります。また、「溝切り」を併せて行うとより効果的です。

○中干しのイメージと効果



○中干しが遅れる（しない）と…



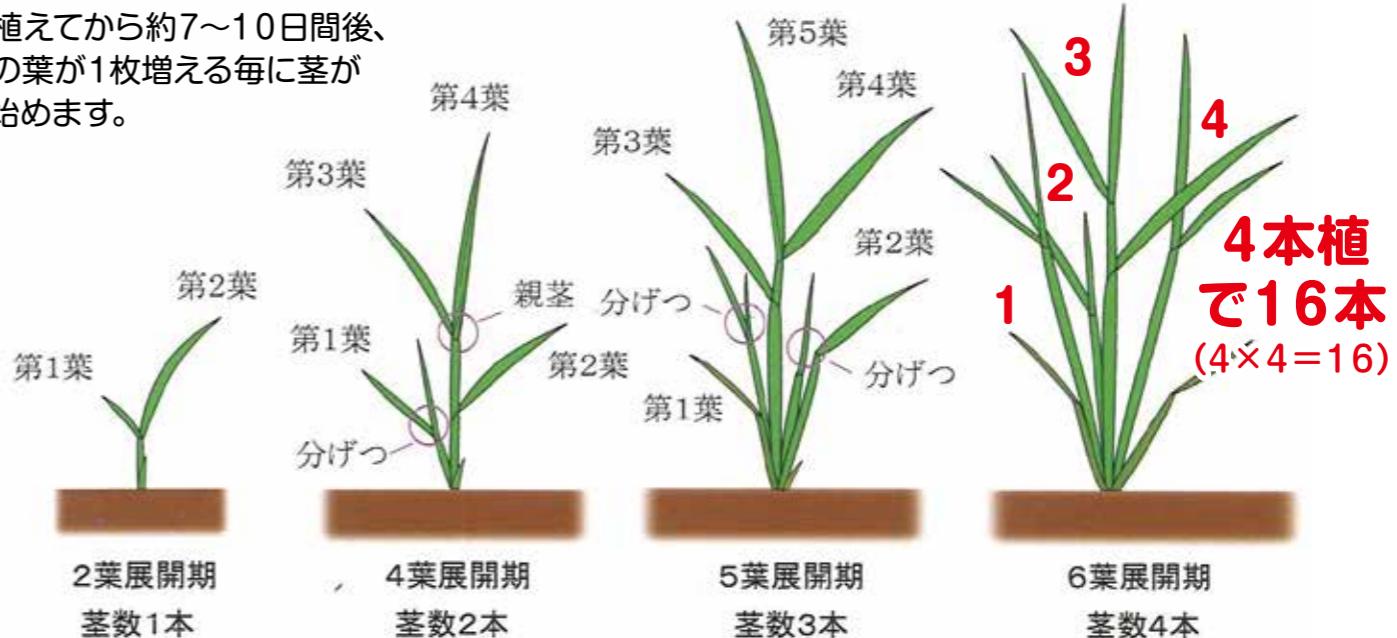
○中間追肥（ケイ酸資材等）

・高温対策としてケイ酸施用が効果的です。
稻がケイ酸を良く吸収する6月下旬～7月上旬頃の施用をお勧めです！

○茎の増え方（分けつの増え方）

※2~2.5葉の苗で植えた場合

- ・茎は植えてから約7~10日間後、主茎の葉が1枚増える毎に茎が増え始めます。



○中干しの程度（めやす）

小ヒビが入り軽く足跡がつく程度に干します。



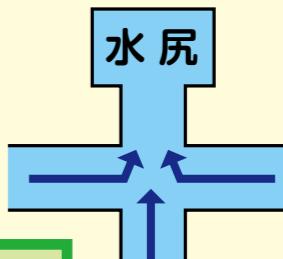
- 地力が高い … 茎数が多い ⇒ 開始時期は早め
→ 程度は強め（田を楽に歩ける程度）
- 地力が低い … 茎数が少ない ⇒ 開始時期は遅め
→ 程度は弱め（足がぬかるむ程度）

○「溝切り」を併せて行なうと効果UP！！

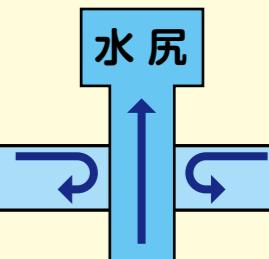
ポイント
Point

- ①周辺に溝を切る
 - ②8~10条に1本溝を切る。
 - ③溝と溝を連結する。
 - ④排水の良い所や田面が高い所は切る数を少なく、排水の悪い所や田面が低い所は多く切る。
- ★以上を守り、ムラなく水が行き渡るようにする。

○排水が円滑



×排水が滞る



6
JUN

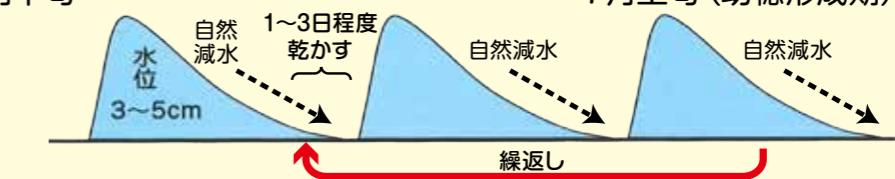
今月のワンポイントアドバイス

- 適期適正中干しで生育をコントロール
(1本1本の茎を太く!!)
 - カメムシ対策草刈りを、6月22日～6月30日
日の間に実施！

○中干し終了後の管理

中干し終了直後から7月中旬（幼穂形成期）まで間断かん水（右図参照）を繰り返し発根促進、根の健全化と地耐力の維持に努めましょう。
※ 乾かしすぎないように注意

○間断かん水のイメージ



予定行事内容: 未来プロほ場情報更新予定 ②…更新2回目 ③…更新3回目 ④…更新4回目 ⑤…更新5回目
■…水稻中干し指導会 ▲…カメムシ対策草刈り期間目安

日	月	火	水	木	金	土
	1 2 2	2	3 3	4 4	5 5	6 6
7 7	8 8	9 9	10 10 3	11 3	12 3	13 3
14 14	15	16	17	18	19	20 4
21 21	22 4	23 4 ▲	24 ▲	25 ▲	26 ▲	27 ▲
28 28	29 ▲	30 ▲ 5 ▲				

※開催・実施内容は予定日です。実際の日程は前後する場合があります。

栽培履歴メモ(6月)『コシヒカリ』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
溝切り	/		
中干し開始	/		
中干し終了	/		
ケイ酸追肥	/		
	/		

栽培履歴メモ(6月)』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
溝切り	/		
中干し開始	/		
中干し終了	/		
ケイ酸追肥	/		



The logo consists of two overlapping circles. The outer circle is light blue and contains the word "安心" (Anxin). The inner circle is white and contains the word "安全" (Anquan).

作業の前後に必ずチェックしましょう!

佐渡米生産工程チェックシート

行程	No.	チェック項目	チェック	JAGAP
整備・点検	6-1	肥料散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 実施日付 基肥 月 日	<input type="checkbox"/>	5
	6-2	農薬（除草剤含む）散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 除草剤 月 日 実施日付 除草剤 月 日	<input type="checkbox"/>	6
本田作業	6-3	【前年と異なる品種を植えた方】（非該当の場合は斜線） 前年品種の混種防止のため、条間を含め異品種株を抜き取りましたか。	<input type="checkbox"/>	31

【チェック項目の補足説明】

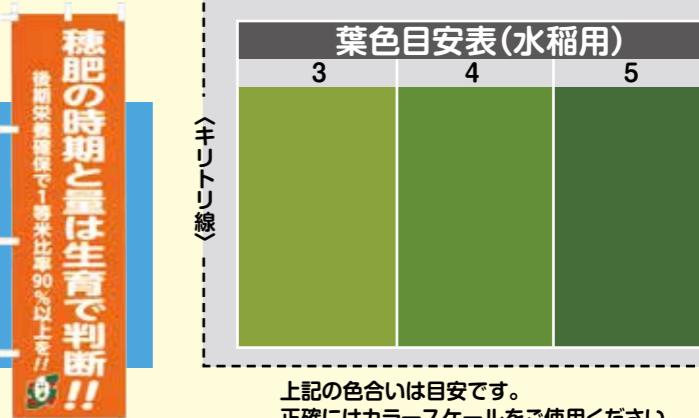
- 条間発生苗の抜き取り
本田内で前年のこぼれ粒が発芽し、今年の苗と一緒に生育すると言う場面がまれに見られます。前年と違う品種を植えたほ場では注意して管理ください。
(特に前年にコシヒカリで、今年は違う品種を栽培する場合には要注意です。)

● 每年 6月 第2日曜は

第1回 佐渡市生きもの調査の日

日本一おいしい佐渡米づくりに向けたポイント

7月 後期栄養確保のために、適期にしっかり穂肥を



上記の色合いは目安です。
正確にはカラースケールをご使用ください。

穂肥の時期と量は生育で判断!!

「コシヒカリ」1回目の穂肥生育目安! (出穂前日数20日前)
幼穂長:0.5cm・草丈:73cm・茎数:430本/m² (28本/株)・葉色板:3.6

① 出穂前日数を把握するには?

■ 幼穂の長さの測り方

- ① 平均的な生育の稻を5株程度選ぶ。
- ② 1つの株の中で長い方から2本の茎を選び、株元から引き抜く。
- ③ 選んだ茎をカッターで縦に割って、幼穂の長さを測る。

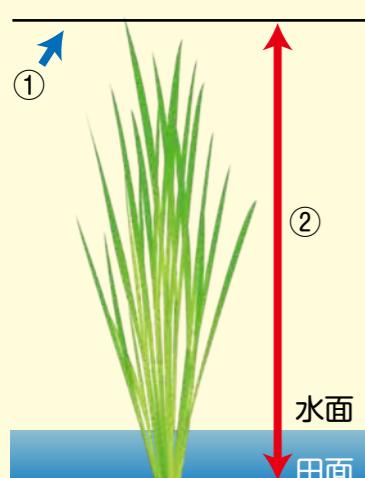


② 草丈と葉色を測るには?

■ ほ場内の平均的な生育か所で10株程度の長さを測定

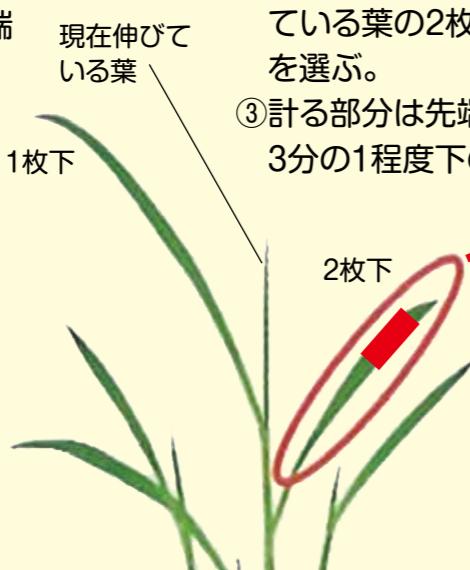
● 草丈

- ① 垂れている葉を垂直に起す。
- ② 田面(地際)から葉の先端までの長さを測る。



● 葉色

- ① 稲で最も長い茎を選ぶ
- ② その茎の中で現在伸びている葉の2枚下の葉を選ぶ。
- ③ 計る部分は先端から、3分の1程度下の位置



○ 葉色計 (SPAD) の場合 葉脈を挟まないよう計測



○ 葉色の場合 板から1cm程度離して、日陰の中で色を比較する。



コシヒカリ穂肥施用のめやす

○ ほ場の水回り条件や、地力、または6月に中干しがしっかり出来たかによって
稻の姿が大きく違います。稻の生育段階に併せて穂肥を施肥できるか確認しましょう。

● 1回目 穂肥の施用時期

【出穂20日前の草丈と葉色診断結果を下図に当てはめてみましょう!】

出穂前の日数	幼穂の長さ
25日前	0.1cm
20日前	0.5cm
18日前	1.0cm
12日前	5.0cm

草丈	上段: カラースケール / 下段: SPAD		
	葉色 (单葉)	葉色 (カラースケール単葉)	SPAD
75cmより高い	△	△	×
75cm~70cm	○	○	△
70cmより低い	★	○	△

- 草丈が適正 (70~75cmの範囲) ⇒ チッソ成分で 1kg/10a施用
○ 葉色が適正 (板3.5~4.0の範囲)
- △ ○ 草丈が(75cmより)高い ⇒ 施用量を減らす
○ 葉色が(板3.5より)薄い
- △ ○ 草丈が(70cmより)短い ⇒ 施用時期を遅らせる
○ 葉色が(板4.0より)濃い
- ×
- 草丈が(75cmより)高い ⇒ 1回目は施用しない
○ 葉色が(板4.0より)濃い
- ★ ○ 草丈が(70cmより)短い ⇒ 施用時期を早める
○ 葉色が(板3.5より)薄い

一発基肥を使用の場合

Point

・低地力や施用量を減らしたまたは、早期梅雨明けや猛暑等により葉色が淡くなった場合
(SPAD30以下・葉色板3.0より薄い)は1回目または2回目の時期に穂肥施用が必要になります。

● 2回目 穂肥の施用時期

- ・「越後の輝き 有機50穂肥」または
「みらい有機831」を使用の場合
- ・「味好2号」を使用の場合

出穂10日前
出穂12日前

● 水管理

・田面の高い部分が隠れる程度入水し、足跡や溝に水が残る程度になったら
再び「かん水」する、「間断かん水(および飽和管理)」を実施しましょう。

7
JULY

今月のワンポイントアドバイス

- 穂肥の1回目は慎重に施用し、2回目重視で後期栄養を考えしっかりと。
- 紋枯病・稻こうじ病・カメムシの防除は、適期を逃さず実施。
- カメムシ対策草刈りを、7月14日～7月26日の間に実施。



アカヒゲホソミドリカスミカズ

稻こうじ病

予定行事内容: 未来プロほ場情報更新予定 ⑤…更新5回目 ⑥…更新6回目 ⑦…更新7回目 ⑧…更新8回目

●…水稻穗肥指導会 ▲…カメムシ対策草刈り期間目安 ■…生育診断実施期間

日々の作業内容をメモして下さい。

日	月	火	水	木	金	土
			1 ⑤	2 ⑤	3	4
5	6 ●	7 ●	8 ●	9 ●	10 ⑥ ●	11 ⑥ ●
12 ⑥	13	14 ▲	15 ■ ▲	16 ■ ▲	17 ■ ▲	18 ■ ▲
19 ■ ▲	20 ■ ▲	21 ⑦ ■ ▲	22 ⑦ ■ ▲	23 海の日	24 スポーツの日	25
26 ■ ▲	27 ■	28 ■	29 ■	30 ⑧ ■	31 ⑧ ■	

※開催・実施内容は予定日です。実際の日程は前後する場合があります。

生育調査 メモ	調査日: 7月 日			生育調査 メモ	調査日: 7月 日		
	草丈	葉色	茎数		草丈	葉色	茎数
1株目	cm		本	1株目	cm		本
2株目	cm		本	2株目	cm		本
3株目	cm		本	3株目	cm		本
4株目	cm		本	4株目	cm		本
5株目	cm		本	5株目	cm		本
平均	cm		本	平均	cm		本

栽培履歴メモ(7月)』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
穂肥施用(1回目)	/		
穂肥施用(2回目)	/		
防除(稻こうじ)	/		
防除()	/		

注意事項 稻こうじ病・墨黒穂病の防除

多発・常発ほ場では防除を実施する。

(参考:防除剤)

(粒) モンガリット粒剤

散布適期:出穂21日～14日前ごろ

(粉) Zボルドー粉剤DL

散布適期:出穂20日～10日前

*ボルドー剤は出穂10日前以降は使用しない

安心
安全 作業の前後に必ずチェックしましょう!

佐渡米生産工程チェックシート

行程	No.	チェック項目	チェック	JAGAP
準備	7-1	カドミウムなどの残留について、土壤の汚染防止のため法律で規制されていることを知っていますか。	<input type="checkbox"/>	3
整備・点検	7-2	肥料散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 施肥 月 日 実施日付 施肥 月 日	<input type="checkbox"/>	5
	7-3	農薬(除草剤含む)散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 除草剤 月 日 実施日付 除草剤 月 日	<input type="checkbox"/>	6
耕起田代 えかき	7-4	使用する除草剤、箱処理剤の使用量、使用時期をラベル等で確認し散布しましたか。	<input type="checkbox"/>	17
	7-5	肥料は、JAの指導(栽培基準)に基づき、施用しましたか。	<input type="checkbox"/>	20
本田作業	7-6	農薬の使用についてはJAの指導(栽培基準)に基づき、使用時期(収穫前日数)、散布量及び使用回数を守り散布しましたか。	<input type="checkbox"/>	24
	7-7	使用後に農薬散布機材を清掃又は洗浄していますか(洗浄した廃液については農産物に危害のない非農耕地に処理しましたか)。 実施日付 月 日	<input type="checkbox"/>	26
	7-8	農薬飛散低減ノズルへの交換や、強風時に散布を行わない等、農薬の飛散防止対策を行いましたか。 実施日付 月 日	<input type="checkbox"/>	27
	7-9	周辺ほ場から農薬の飛散がないことを確認していますか。	<input type="checkbox"/>	
	7-10	病害虫発生予察やJAからの情報を活用して適時適切な防除を行いましたか	<input type="checkbox"/>	29

【チェック項目の補足説明】

●カドミウム

カドミウムは人体への悪影響を及ぼす重金属の一つです。稻はそのカドミウムを吸収しやすい作物で、一定の微量濃度(0.4ppm)の検出量で「汚染米」扱いとなります。

土質・水系等、天然含有によるものにも左右され、全国的にどこでも汚染源はあるものと考えられています。

→ 出穂前3週間と出穂後30日間の飽水管理で吸収が抑制されるので水管理の徹底が重要です。

●農薬の飛散防止

農薬登録上の使用基準や減減栽培による使用制限は米の販売上、厳格に守らなければなりません。飛散はこれらを「無」にすることにつながります。

残留農薬基準の適用範囲もより広いものになっています(H18ポジティリスト制度導入)ので水田に限らず他作物への飛散についても絶対に無いよう注意ください。

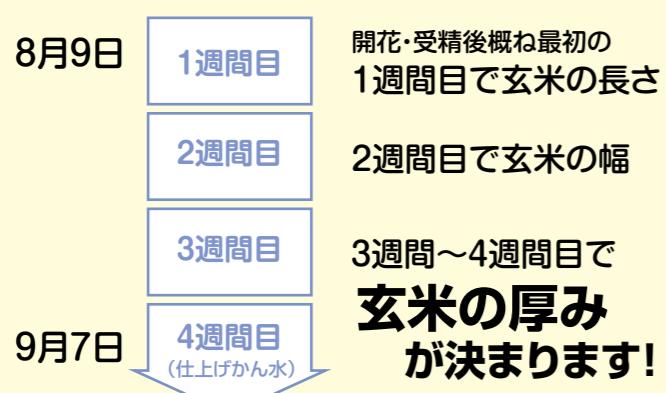
日本一おいしい佐渡米づくりに向けたポイント

8月 水管理が品質向上の決め手!!カメムシ防除の徹底!!

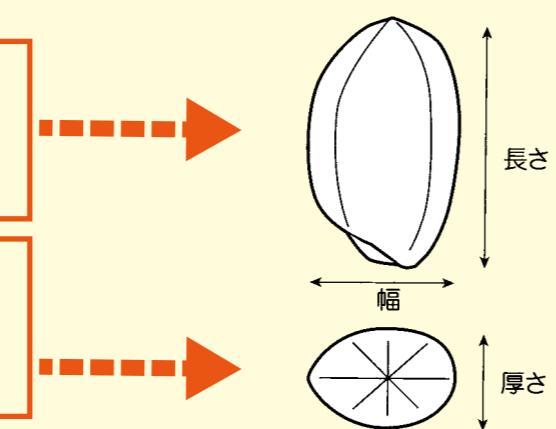
美味しい佐渡米づくりの実践!こまめな水管理が品質の決め手!!

玄米の大きさが決まるまでは、出穂してから約4週間(30日程度)かかります。

お米の大きさが決まるまでのイメージ



*出穂後の水管理が非常に大切



早く落水した田んぼの米は最後の厚みが十分でなく、「未熟粒(ヤセ米)」等の粒厚の薄い米になってしまいます。

●未熟粒(ヤセ米)とは

「粒の厚みがなく扁平」「粒の幅が細い」「表面の縦溝が深い」などの充実不足粒(ヤセ米)の事です

●未熟粒(ヤセ米)の発生要因

「地力低下等による後期栄養不足」「登熟期の水分不足」「粒数過多」など

出穂期から10日間程度は湛水管理とし、それ以降の出穂期30日目程度まで
「間断かん水(および飽水管理)」で根の健全化と登熟に必要な水分補給に努めましょう!

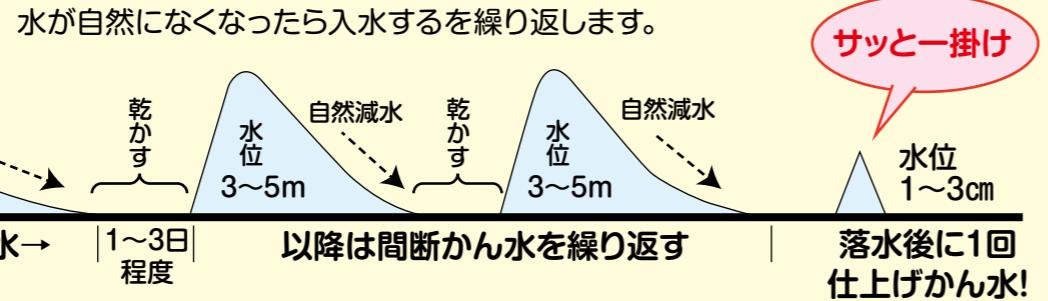
【間断かん水の効果】

①地力窒素が継続的に発現し、登熟期間の稻体の栄養を補うことにより「未熟粒(ヤセ米)」が軽減できます。

②「乳心白」「胴割粒」「基部未熟」の発現を抑える効果があり、米の品質が安定します。

※特に高温の年に効果あり

間断かん水のイメージ



★完全落水の目安は、玄米の大きさが決まる「出穂後30日以降」にしましょう!

病害虫防除

●斑点米カメムシ類防除

「粉・液剤」使用の場合

カメムシは2回防除が原則です。
1回目の防除適期 ⇒ 出穂5~7日後
2回目の防除適期 ⇒ 1回目散布の7~10日後
早生品種や斑点米常発地やカメムシ類の密度が高い場合は必ず2回散布を実施する

「粒剤」使用の場合

基本的に1回防除が原則です。
散布時 ⇒ 3~5cm湛水状態にして散布し、止め水状態を保ちましょう。
※毎年斑点米被害等で格落ち要因となっている場合は、「粉剤・液剤」使用体系での2回防除をお薦めします。

【注意】…粒剤は散布適期が使用薬剤により異なりますので、使用前に必ずご確認ください

●出穂(しゅつすい)とは?



出穂期
田んぼの中で4~5割の穂が出穂した日

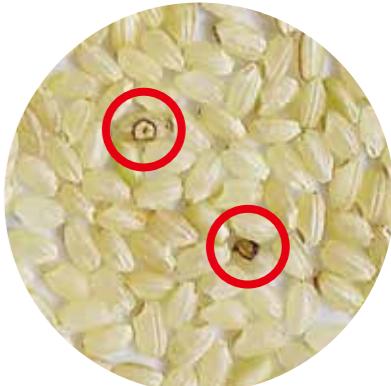
約2~3日後

穂揃い期
8~9割の穂が出穂した日

斑点米カメムシ類防除

●斑点米を発生させるカメムシ

畠畔から侵入するオオトゲシラホシカメムシ、近年増加中の飛んで来るカスミカメ類、ホソハリカメムシ等、いずれのカメムシも目に付きにくい。



●防除法

- 6~7月の草刈り徹底で増殖を抑える。
- 水田内のヒエやホタルイは飛来を招くので早めに抜き取る。
- 薬量に注意して適期の薬剤散布を徹底する。

●病害虫防除は発生予測情報やほ場をよく観察して防除要否を判断しましょう。

●農薬の使用に当たってはラベルを見て安全使用基準を守りましょう。

8

AUGUST

今月のワンポイントアドバイス

- 強風・台風・フェーン現象が予測される時は、予め十分にかん水する。
- 稻体の活力維持のため、完全落水は出穂後30日。
- 防除の際は、近隣他作物への農薬飛散に十分な注意を。

注意事項

栽培履歴カードの提出は 8月20日(木)までに各JA営農窓口へご提出ください。

予定行事内容: 未来プロほ場情報更新予定 ⑧…更新8回目 ●…水稻水管管理・防除指導会
 ■…カメムシ対策 1回目および2回目防除期間目安(液・粉) ※…栽培履歴カード提出期限

日々の作業内容をメモして下さい。

日	月	火	水	木	金	土
						1 8
2	3 ●	4 ●	5 ●	6 ●	7 ●	8
9	10 山の日 ■	11 ■	12 ■	13 ■	14 ■	15 ■
16	17	18	19	20 ※	21	22
23	24 ■	25 ■	26 ■	27 ■	28	29
30	31					

※開催・実施内容は予定日です。実際の日程は前後する場合があります。

栽培履歴メモ (8月) 『コシヒカリ』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
出穂期 ⇒	月 日(5~7日後にカメムシ1回目防除)		
防除(カメムシ)	/		
防除(カメムシ)	/		
防除()	/		

栽培履歴メモ (8月) 『コシヒカリ』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
出穂期 ⇒	月 日(5~7日後にカメムシ1回目防除)		
防除(カメムシ)	/		
防除(カメムシ)	/		
防除()	/		



●毎年8月 第1日曜は
第2回 佐渡市生きもの調査の日

安心 安全 作業の前後に必ずチェックしましょう!
佐渡米生産工程チェックシート

行程	No.	チェック項目	チェック JA-GAP
整備・点検	8-1	農薬(除草剤含む)散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 カメムシ 月 日 実施日付 カメムシ 月 日	<input type="checkbox"/> 6
	8-2	収穫・乾燥・調製作業の開始前に、機械及び設備の整備・点検・故障箇所の修理を行いましたか。	<input type="checkbox"/> 7
	8-3	乾燥・調製作業の開始前や品種の切り替え前に、機械及び設備の掃除を行いましたか。	<input type="checkbox"/> 8
	8-4	使用する除草剤、箱処理剤の使用量、使用時期をラベル等で確認し散布しましたか。	<input type="checkbox"/> 17
	8-5	肥料は、JAの指導(栽培基準)に基づき、施用しましたか。	<input type="checkbox"/> 20
出荷契約	8-6	栽培履歴(最終実績)または、「特別栽培米」栽培実績報告書を各JAの様式に従い提出しましたか。 提出期限 8月20日(木)まで	<input type="checkbox"/> 23
	8-7	農薬の使用についてはJAの指導(栽培基準)に基づき、使用時期(収穫前日数)、散布量及び使用回数を守り散布しましたか。	<input type="checkbox"/> 24
	8-8	使用後に農薬散布機材を清掃又は洗浄していますか(洗浄した廃液については農産物に危害のない非農耕地に処理しましたか)。 実施日付 月 日	<input type="checkbox"/> 26
	8-9	農薬飛散低減ノズルへの交換や、強風時に散布を行わない等、農薬の飛散防止対策を行いましたか 実施日付 月 日	<input type="checkbox"/> 27
	8-10	周辺ほ場から農薬の飛散がないことを確認していますか。	<input type="checkbox"/>
本田作業	8-11	ほ場への害虫の侵入防止のため、周辺の雑草地を含めた適期の草刈りを行いましたか。	<input type="checkbox"/> 28
	8-12	病害虫発生予察やJAからの情報を活用して適時適切な防除を行いましたか	<input type="checkbox"/> 29
	8-13	周辺ほ場と比較し品種固有の出穂期になっていることを確認しましたか。	<input type="checkbox"/> 30
	8-14	クサネム等の雑草を取り除きましたか。	<input type="checkbox"/> 32
	8-15	【カドミウム対策として重要です】 出穂前3週間と出穂後30日間は飽水管理をしましたか。	<input type="checkbox"/> 33

【チェック項目の補足説明】

●クサネム等の抜き取り

クサネム種子はライスグレーダー等では取り除けないので、「異物混入による格落ち」の原因になります。また、混入による取引先からのクレームもあります。ヒエやその他の雑草も発生程度によっては種子の混入も有り得ますのでご注意ください。

9

日本一おいしい佐渡米づくりに向けたポイント

1年の総仕上げ

9月「仕上げかん水・適期収穫・乾燥調製」で1等米出荷へ!



ピカイチくん

佐渡産コシヒカリ刈取り適期見本版

早すぎる



生 粉

搗り落し玄米

未熟米・青米の増加

くず米增加による
品質と収穫量の低下

刈取り適期始め～刈取り適期終り



出穂後40日頃

糲の90%が黄化した時期



出穂後47～50日頃

穂軸に青みが残っている頃

遅すぎる

適期を過ぎる程
格落ち原因リスク増

生 粉

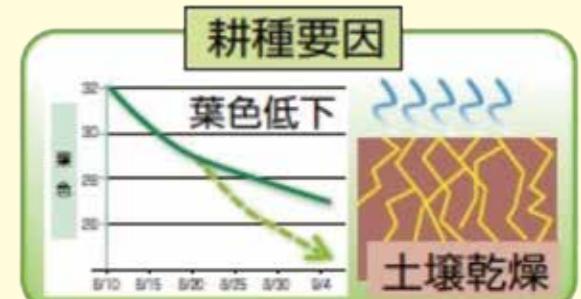
搗り落し玄米

着色粒・胴割れ粒
基部未熟粒の増加↓
品質と食味の低下

品質・食味低下につながる

「胴割米」発生要因

- ①高温・フェーン等の気象要因
- ②稻の栄養低下、根の老化、
土壤乾燥等の耕種要因
- ③刈遅れ、過乾燥等



9

SEPTEMBER

日々の作業内容をメモして下さい。

今月のワンポイントアドバイス

- 粉混入、他品種混入、肌ズレ、過乾燥など調製時のミスに十分注意を。
- 必ずは場ごとに粉の黄化状況確認!「適期刈取り作業」を!!
- 水管理重点期間(9月1日~9月7日)中に1回以上は(仕上げ)かん水する。

予定行事内容: 未来プロほ場情報更新予定 ⑨…更新9回目 ■…水稻刈取り指導会
★…仕上げかん水期間(9/1~9/7の期間中に1回)

日	月	火	水	木	金	土
		1 ★	2 ★	3 ★	4 ★ 9 ■	5 ★ 9 ■
6 ★ 9 ■	7 ★ 9 ■	8 9 ■	9 9 ■	10 9 ■	11 9 ■	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21 敬老の日	22 秋分の日	23	24	25	26
27	28	29	30			

※開催・実施内容は予定日です。実際の日程は前後する場合があります。

栽培履歴メモ(9月)『コシヒカリ』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
落水日	/	_____	_____
刈取り日	/	_____	_____
/	/	_____	_____
/	/	_____	_____
/	/	_____	_____

栽培履歴メモ(9月)『』			
作業内容	作業日	使用資材名	使用量(kg /10a)
落水日	/	_____	_____
刈取り日	/	_____	_____
/	/	_____	_____
/	/	_____	_____
/	/	_____	_____

安心
安全

作業の前後に必ずチェックしましょう!

佐渡米生産工程チェックシート

行程	No.	チェック項目	チェック	JA-GAP
整備・点検	9-1	収穫・乾燥・調製作業の開始前に、機械及び設備の整備・点検・故障箇所の修理を行いましたか。	<input type="checkbox"/>	7
	9-2	乾燥・調製作業の開始前や品種の切り替え前に、機械及び設備の掃除を行いましたか。	<input type="checkbox"/>	8
収穫	9-3	品種切り替え時にコンバインなどの掃除を行い、他の品種が混じらないよう注意をしましたか。	<input type="checkbox"/>	34
	9-4	粉の変質やヤケ米防止のため刈取後は速やかに乾燥機に搬入し、通風・乾燥を行いましたか。	<input type="checkbox"/>	35
乾燥・調整・出荷(自ら行う場合)	9-5	J A の指導(栽培基準等)に基づき適期収穫を行いましたか。 <u>収穫日 月 日</u>	<input type="checkbox"/>	36
	9-6	倒伏や病害虫による被害粉、高水分粉を仕分けして収穫し、出荷についても分けましたか。	<input type="checkbox"/>	37
乾燥・調整・出荷(自ら行う場合)	9-7	乾燥・調整時の品種の切り替えの際に、機械の点検・清掃を行い、粉砕り初期の玄米は保有米等に回し品種の混種防止に努めましたか。	<input type="checkbox"/>	38
	9-8	粉の水分含有率を確認し、適切な温度管理で過乾燥の防止に努めましたか。 (胴割粒の発生防止・玄米の仕上げ水分 15%)	<input type="checkbox"/>	39
基準となる「おもり」などを使用して計量器の精度確認を行いましたか。又は業者による点検を行いましたか。	9-9	基準となる「おもり」などを使用して計量器の精度確認を行いましたか。又は業者による点検を行いましたか。	<input type="checkbox"/>	40
	9-10	粉砕り初期の玄米は別管理とし、保有米等に回しましたか。	<input type="checkbox"/>	41
全般	9-11	「備蓄米・加工用米・米粉用米・飼料用米」は「JA米・一般米」と明確に区分して出荷しましたか。	<input type="checkbox"/>	42
	9-12	出荷用紙袋の保管は適切に行っていますか。	<input type="checkbox"/>	43
保管管理	9-13	出荷用紙袋は専用の紙袋を使用し必要事項を適正に記入しましたか。	<input type="checkbox"/>	44
	9-14	農業用の燃料、オイル等は専用容器を使用し、汚損などしないように鍵のかかる専用の場所等で適切に保管・管理しましたか。	<input type="checkbox"/>	47
9-15		米出荷時の依頼伝票「米検査依頼書」の生産者控えは保管しましたか。また、資材の購入伝票等は、保管していますか。 (肥料・農薬の施用量、書類記入等の参考)	<input type="checkbox"/>	53

10月

日本一おいしい佐渡米づくりに向けたポイント

日本一おいしい佐渡米は土づくりから ～次年度にむけて地力増進～



近年の異常気象条件下では生育後半に稻が栄養不足になり、米の品質・食味低下につながっています。気象変動に左右されない米づくりには、土づくり肥料の活用や稻わら・糀がらのすき込みによる「地力増進」が重要となります。

1. 土づくり資材（ケイ酸肥料）の活用

- 根の酸化力が高まり、根腐れ・秋落ちが軽減されます。
- 活力のある根が張り、倒伏に強くなります。
- 葉が硬くなり病害虫に対する抵抗力が高まります。
- 光合成を活性化し登熟を向上させ、米の品質・食味が良くなります。

2. 稲わら・糀がらの秋すき込み

- 地力の維持増進、土壤の改善・品質向上の働きがあります。
- 糀がらは、約2割のケイ酸を含むため、水田へのケイ酸供給効果。
《糀がら150kgはケイ酸の成分で約30kgに相当する安価で有効なケイ酸資材です。》

稻わらは貴重な土づくり資源です～燃やさずすき込みましょう～

土づくり資材選定のめやす

※佐渡土づくりマップは次ページ(11月・12)を参照

目的	資材	施用量 (10aあたり)	期待される効果
ケイ酸の補給	スーパーシリカ プレミアム	40~60kg	根の酸化力が高まり、根腐れ、秋落ちが軽減。登熟が高まり品質や食味が向上。病害虫や倒伏軽減。
	シリカリュウ17	60~100kg	多孔質の形状により、上記ケイ酸の効果に加え、保肥力・保水力が向上。(低地力・肥料切れが早いほ場にケイフンとの併用がオススメ)
リン酸の補給	粒状ようりん	20~40kg	ケイ酸を含み相乗効果により分けつ促進。登熟や食味の向上
カリの補給	けい酸カリプレミア34 越後の輝きソイル米(マイ)スター	20~40kg 30kg	ケイ酸も含み相乗効果により光合成を助け、糀へのデンプンの移行を促進。登熟や食味向上
鉄の補給	みつパワー	40~60kg	マンガン10%ほか、数種ミネラルを含む土づくり肥料。ワキ、ごま葉枯れ、秋落ち対策では春の土づくりに。
地力の維持	醜酵ケイフン	30kg	低地力地域では45~60kg
稻わら等の腐熟促進	アグリ革命 スーパーわらコールド	2kg 15kg	酵素パワーで分解を促進 微生物増量で分解を促進。10a当たり1袋散布。

- ・発基肥やエコペースト体系ではリン酸とカリの成分が少ないので補給する。
- ・シリカリュウ17は低地力地域の保肥力・保水力の向上に使用する。

土壤診断の実施で土づくりに活かしましょう！

土壤診断を希望される方は、稻刈り直後で土づくり肥料（土壤改良剤）等が施用される前、および稻わらの秋すき込み前に土を探ることが大切です。
彩土から乾燥・調整、持込までの詳しく述べはJA営農窓口でご確認ください。

3. 土づくり・有機物分解促進のポイント

① ほ場の表面水の排水と均平化に努める

- ・酸素を土に供給することで微生物の活動が盛んになり、稻わらの腐熟が進みます。
- ・すき込みは5~10cm程度の浅うちにし、できるだけ粗い土塊で起こし、土を練らないようにしましょう。
- ・田植え機やコンバインの走行などでできたほ場の高低差は、秋のうちに土を移動させて解消し、年内には均平なほ場条件を整えましょう（代かかきでの土の移動は最小限にし、過度な土の練りすぎを回避する。）

※腐熟促進剤は使用法に沿ってご使用ください。



秋すき込み良い例



秋すき込み悪い例



秋うち後 悪い例



糀がら散布量の目安

均平にせず秋うちすると、水が溜まり、春の田植え時も柔らかいままになります。

10aの田から約135kgの糀がらが獲れます。
これを10aに散布すると田面が半分見える程度。

10

OCTOBER

日々の作業内容をメモして下さい。

今月のワンポイントアドバイス

- 土壤診断に基づき、稻わらなど有機物をすき込み、土づくりに努めましょう。
- ※土壤診断用の土は、刈取り直後の秋すき込みや肥料等を施用していない状態のものを採ります。

予定行事内容:★…土づくり(稻わらすき込み等) 実施適期間 微生物が動く暖かいうちに!

日	月	火	水	木	金	土
				1 ★	2 ★	3 ★
4 ★	5 ★	6 ★	7 ★	8 ★	9 ★	10 ★
11 ★	12 ★	13 ★	14 ★	15 ★	16 ★	17 ★
18 ★	19 ★	20 ★	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

※開催・実施内容は予定日です。実際の日程は前後する場合があります。

注意事項 生産工程チェックシートは
10月20日(火)までに
JAへご提出ください。

注意事項

- ばか苗病を発生させないために
- ・ばか苗病が発生したほ場の糞がらは育苗ハウスの敷き床や、くん炭等に使用すると翌年の発生源となります。
 - ・発生ほ場の糞がら等は、すき込みを行い土づくりに活用しましょう!

安心安全 作業の前後に必ずチェックしましょう!
佐渡米生産工程チェックシート

行程	No.	チェック項目	チェック	JA-GAP
準備	10-1	稻わら等は野焼きしませんでしたか。 また、堆肥、稻わらの鉗込みなどにより有機物の施用で土づくりを行いましたか。	<input type="checkbox"/>	2
整備・点検	10-2	肥料散布機の使用前点検を毎回行い正確に散布できることを確認していますか。 実施日付 土づくり資材 月 日	<input type="checkbox"/>	5
全般	10-3	土壤診断等を実施し、ほ場条件に合った適正な施肥や土づくりに努めましたか。	<input type="checkbox"/>	50
全般	10-4	肥料袋や農薬のポリ容器等はそれぞれの専門業者委託により適正に処理しましたか。	<input type="checkbox"/>	51
その他	10-5	佐渡米生産工程チェックシートは各JAの様式に従い提出しましたか。 提出期日 10月20日(火)	<input type="checkbox"/> /	

【チェック項目の補足説明】

●野焼き防止

野焼きの周辺環境への影響は大きく、「環境の島」佐渡として無くしたい行為です。特に「稻わら」は水田にすき込む、あるいは集めて堆肥化させることが可能であり、絶対に焼くことの無いようにして下さい。

●使用済み空き容器の処理

JAでは肥料袋や農業用ビニール等の処理を年2回、農薬のポリ容器や期限切れ農薬の処理を年に1回、専門業者に委託して行っていますので、是非これらの機会をご利用下さい。

日本一の“おいしさ”と “みばえ”を兼ねそなえた

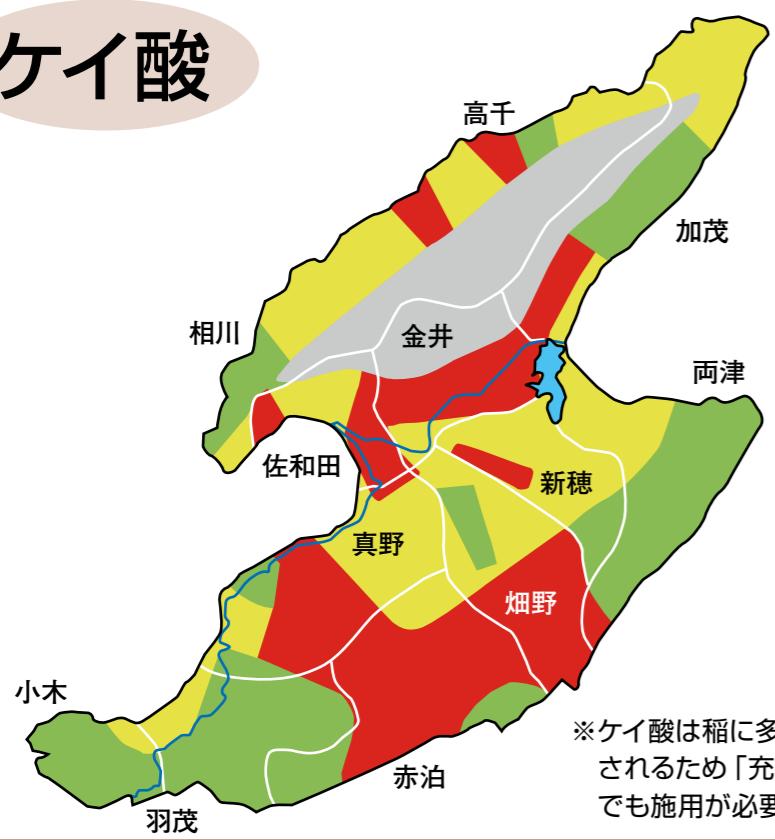
充分な範囲

そろそろ
補給が必要

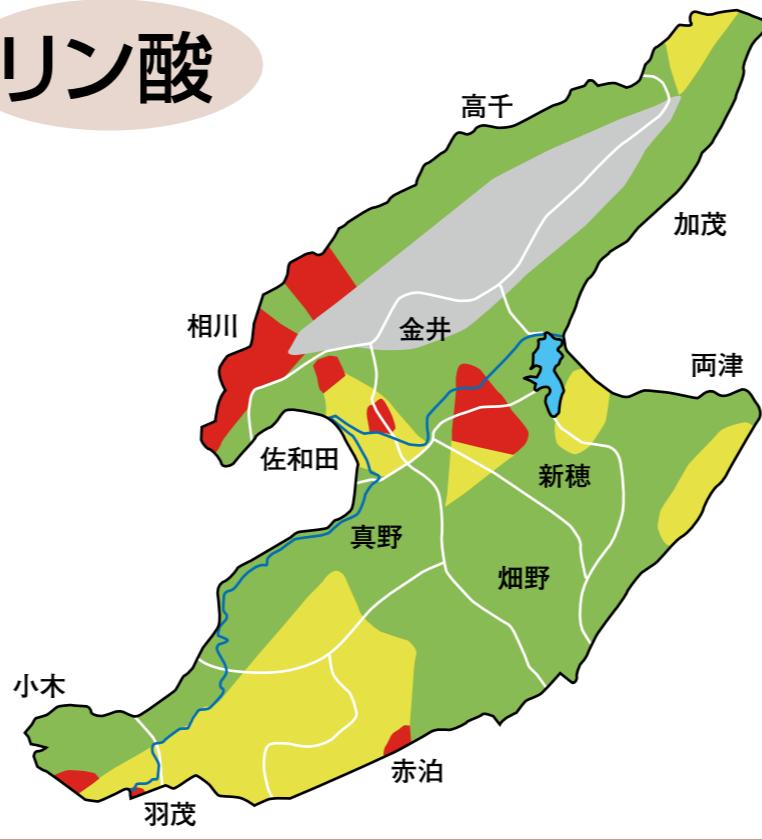
不足しているため 施用が必要

佐渡米+づくりマップ

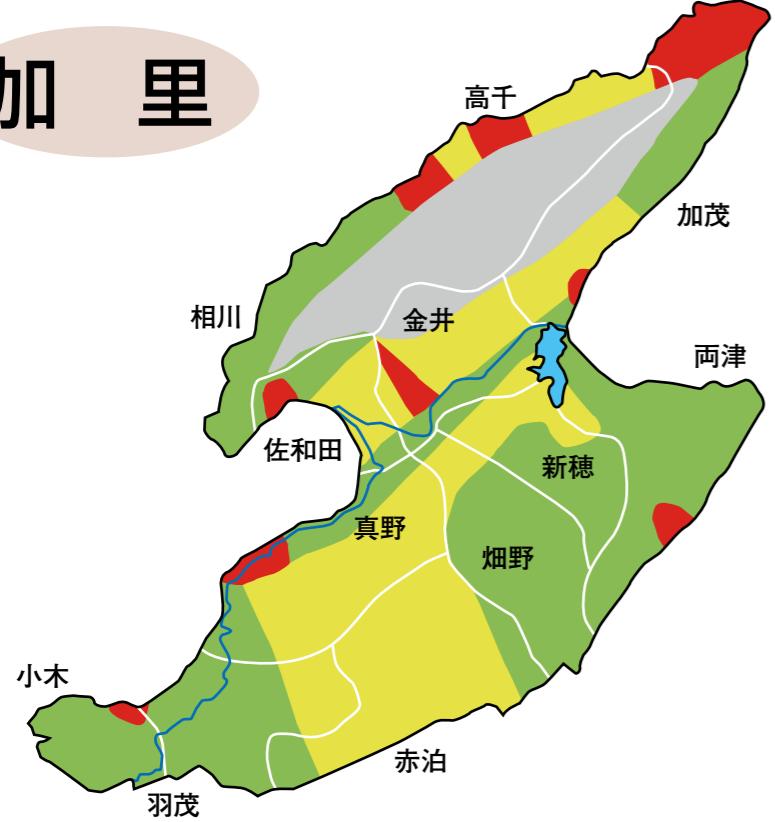
ケイ酸



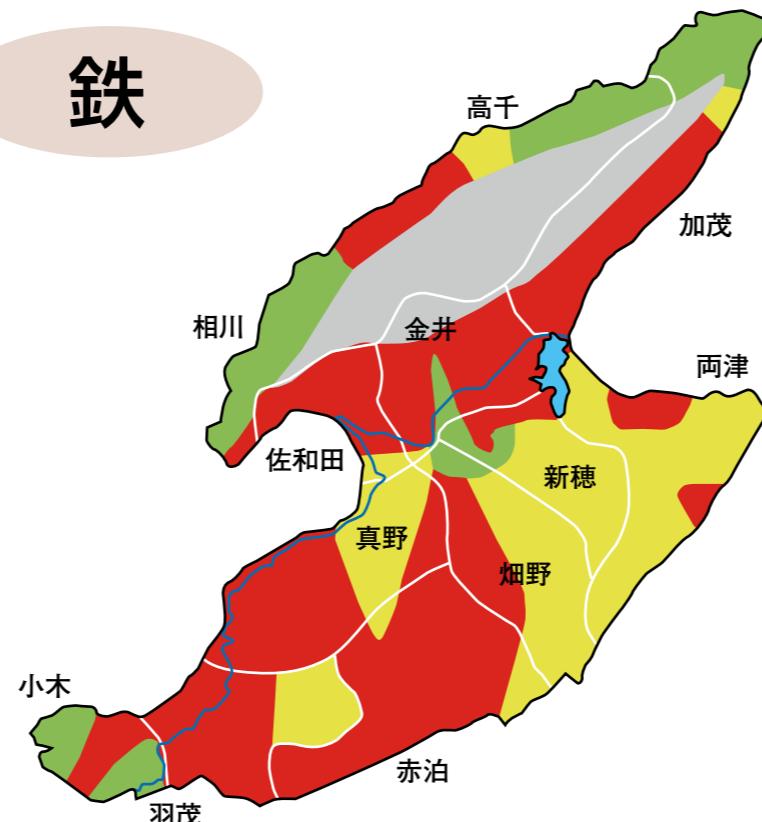
リン酸



加里



鉄



土壤診断の結果から

- 「色分け部分」は過去3年の平均値にて成分の過不足を表しています。
 - 各成分のおすすめ資材は10月の表をご参考ください。
(特に、各成分吸収を促進させるケイ酸の施用をおすすめします。)
 - 土づくりとしての施用時期は稻わらすき込みと合わせて10月20日まで
がおすすめですが、なるべく早めに施用しましょう。
 - ※他、詳しくは各JA窓口までお問合せください。

リン酸の効果

- 稲の分けつの促進、特に生育初期は根つけを増進させる。
 - 登熟時の黄化が遅いやすくなる。

加里の効果

- 光合成を促進しデンプンの蓄積を増進させる
 - 葉面に蓄積したデンプンを糊に転流させる。



鉄の効果

- 根腐れの原因となるワキ(硫化水素)の発生を抑える。
「秋落ち」の改善、「ごま葉枯れ」の軽減等。⇒減収の防止
※秋落ち、ごま葉枯れ対策は春施用

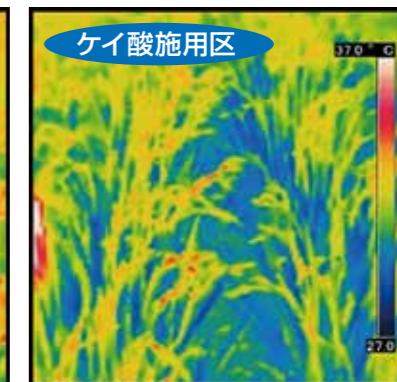
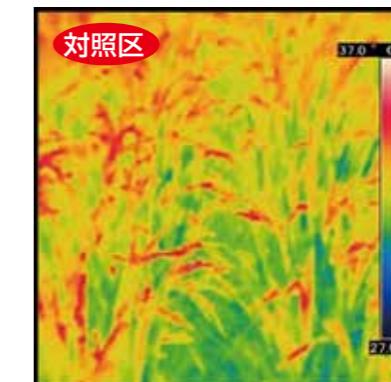
近年不足しています

ポイント
Point

総合的な成分の吸収もサポート！

ケイ酸の効果

- 根の活性を高め、養分・水分の吸収を増進！
 - 高温障害・白未熟粒の発生を軽減させる（クーラー効果）



【葉の温度が低下し、穀の高温ストレスを和らげる(開発肥料(株))】

ケイ酸により蒸散が活発になることで、
気孔を大きく開けて呼吸することができるのじゃ！



※マップは平均的な地区の傾向となります。個別の状態については土壤診断をご活用ください。

11

NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 文化の日	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28
29	30					

12

DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

ケイ酸の効果

ポイント① 高温障害・白末熟粒軽減!!

『ケイ酸施用で根張り充実!根の活性化を高めます!!』

- ・高温条件では、根の活力が低下してしまいます。「ケイ酸」を施用することにより根張りをよくして丈夫な稻体になります。
- ・ケイ酸を施用した稻は蒸酸が活性化し葉の温度が低下する為、高温によるストレスを和らげます。

ポイント② 登熟不良対策!!

- ・ケイ酸は受光態勢を良くし光合成を活発化させる働きがあるため、登熟が高まります。



“おいしさ”と“みばえ”を兼ねそなえた日本一！の佐渡米づくりへの挑戦!!

格落ちの原因となるお米



内容
「粒の厚みがなく扁平」「粒の幅が細い」「表面の溝が深い」など充実不足（ヤセ米）

原因
「穂数過剰」「後期栄養不足」「登熟期の水分不足」

対策
登熟期間全体の栄養確保
⇒一発基肥体系も含み適期適量の基肥や生育を見た穗肥の施用
出穂以後の水管理
⇒出穂後30日間はこまめな水管理
土づくりの実施や作土深の確保



内容
粒が緑色を呈しているもの

原因
茎数の過剰
早期の倒伏 または 早刈り

対策
茎数過剰防止
⇒適正な植え込み本数（3~4本/株）
⇒適期中干しの徹底による茎数調整
適期刈取り
⇒黄化率85~90%を確認した適期期間での刈り取り



内容
カメムシ被害で着色しているもの

原因
畦畔の雑草が多い
カメムシ防除の未実施

対策
出穂前までに畦畔の草刈り実施
適期防除の実施



内容
「粒が割れているもの」「粒に亀裂があるもの」

原因
「高温での急激な乾燥」「刈り遅れ」「登熟期の水不足」

対策
出穂前までに畦畔の草刈り実施
適期防除の実施



内容
粒の中心部が白色不透明なもの

原因
出穂直後の高温や登熟中期のフェーン
穂数の過多や弱小穂の発生
地力や肥料不足（幼穂形成期）

対策（共通）
◎土づくりの実施（秋・春） ⇒ 秋耕耘：ケイ酸系資材等の施用（ケイ酸は中間追肥を含む）
春耕耘：鉄系資材の施用（特に「秋落ち」は場）
○適正な穂数・穂数の調整 ⇒ 栽植密度の適正化・適期中干しの徹底
○登熟期間全体の栄養確保 ⇒ 一発基肥体系も含み適期適量の基肥や生育を見た穗肥の施用
○登熟期間全体の水分確保 ⇒ 早期落水の防止
○作土深の確保（12~15cm） ⇒ 秋は5~10cmの浅打ち、春は12~15cmの耕耘



内容
粒の腹部が白色不透明なもの

原因
出穂後10~15日間の高温（30°C以上）や干ばつ
登熟中期での栄養不足



内容
粒の背部が白色不透明なもの

原因
出穂後10日~24日間の高温
特に出穂後10~15日間の高温（27°C以上で発生、30°C以上で多発）

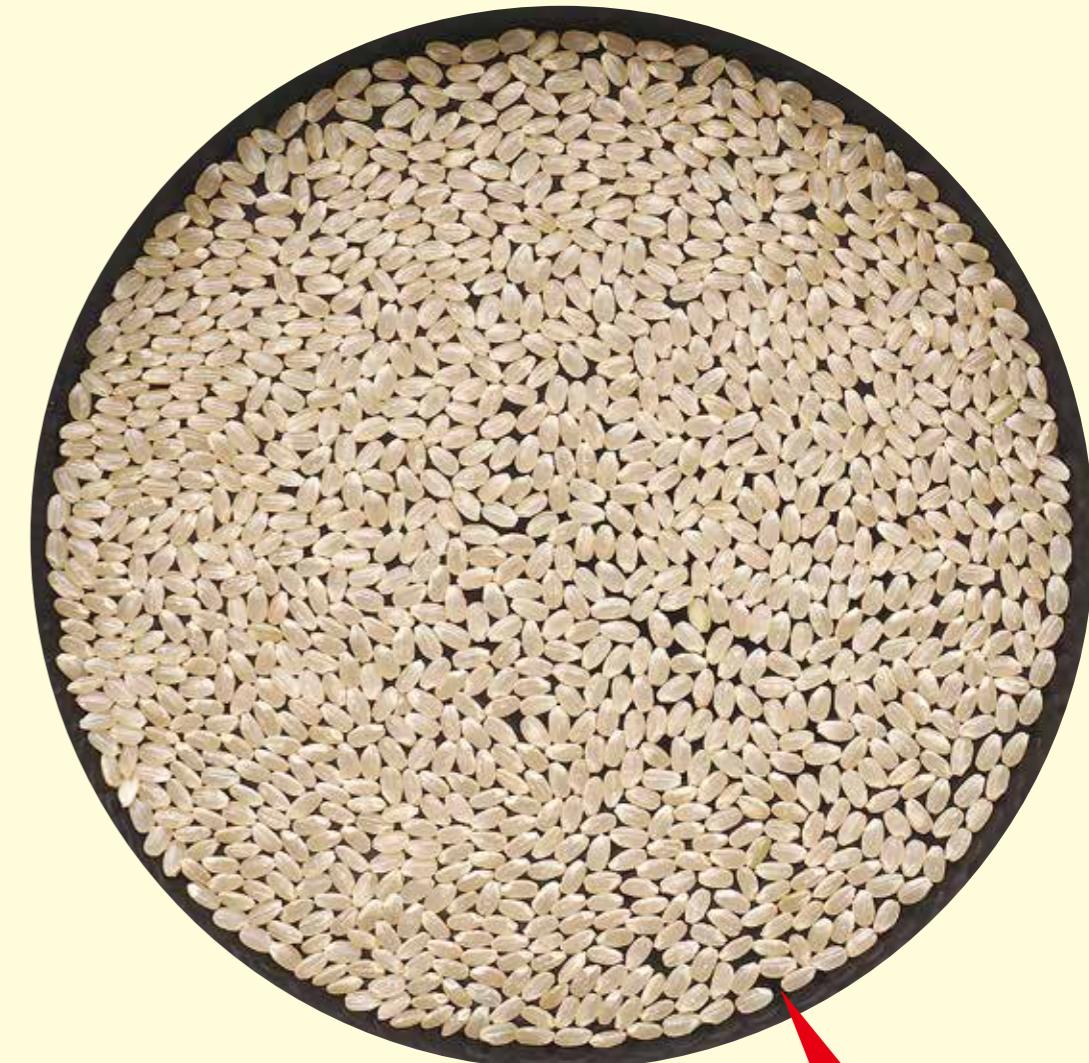


内容
粒の基部が白色不透明なもの

原因
○出穂後5日~24日間の高温（26°C）
○倒伏や強風等により、枯れ込みが進み刈り取り適期間が狭まった場合

対策
※ 基部未熟粒 ※
黄化率（85~90%）を確認した適期期間での刈り取り

目標は整粒歩合80%以上です



整粒見本



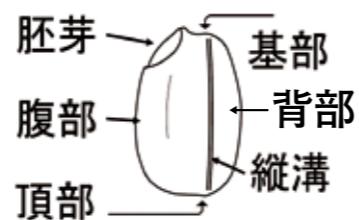
80%見本

（農産物検査での1等米基準は整粒歩合70%以上です）

米選機のふるい目は1.85mm以上を使用し、整粒歩合を向上させましょう。

監修・作成：JA佐渡

1等米比率90%以上の達成・維持を！！
日本一おいしい佐渡米の実現へ！！



発生要因相関図



令和2年産 佐渡米品質向上重点技術対策

～1等米比率90%の継続を！日本一おいしい佐渡米の実現へ！！～



適正な「茎数・もみ数」確保で、「コンパクトな稲づくり」で品質向上!!

[穂数⇒ 350本/m² (23本/株)・もみ数 ⇒ 28,000以下/m²以下]



効果①：どんな気象条件でも品質のブレが少ない

効果②：1本1本の茎が太くなり、登熟向上・倒伏軽減につながる

効果③：1粒1粒が大きい米になる

①育苗～田植え日から逆算した計画的な作業を！～

(詳細3月・4月参照)

は種の適正化：は種日 ⇒ 稚苗で、田植え日の20日～25日前（4月10日以降）

育苗日数 ⇒ 加温育苗 20～22日以内

無加温育苗 22～25日以内

～育苗段階から、足腰の強い太い苗づくり～

②適期中干しで過剰生育防止～品質向上の分岐点!適期中干しで生育コントロール

過剰生育防止のため、田植え後約30日を目安に落水開始!!

(詳細6月参照)

★茎数は15・16本になら水を落とし「溝切り・中干し」開始！

※隣の株との間の条が隠れ始めてからの中干しでは遅い

★中干しの様々な効能

～コンパクトな稲づくり実践で粒は大きく粒張りの厚いお米へ～

①無効茎の発生抑制による適正生育量の確保 ③土壤への酸素供給による根の健全化

②下位節間の伸長抑制による倒伏軽減 ④収穫時の機械作業が容易な地耐力の確保

③生育診断に基づく適正な穗肥施用～穗肥の時期と量は生育で判断～

(詳細7月参照)

穗肥は登熟を良好にし、品質・収量を安定させるために重要な作業です。

○穗肥は生育診断を実施し2回に分けて実施する（倒伏防止と後期栄養の確保）

1回目 ⇒ 「草丈・葉色を診断し、慎重に実施」※特に低温年は「慎重」

2回目 ⇒ 「後期栄養を考え確実に施用」

★一発基肥でも穗肥が必要な場合があります！

○低地力や施用量を減らした、または早期梅雨明けや猛暑等により葉色が淡くなった場合

(SPAD30以下・葉色板3.0より淡い) は1回目または2回目の時期に穗肥施用が必要になります。

※必ずほ場ごとに「生育診断」を実施しましょう！

④出穂以降の水管理の徹底!～仕上げかん水徹底で登熟向上!!～

(詳細8月参照)

出穂以降の水管理を徹底し、土壤の乾燥を防止する。

※土壤水分確保で生育後半まで根の活力を維持するとともに、地力窒素発現量を確保し登熟を高めましょう。

間断かん水（飽水管理）による保水効果

①登熟期間、稻体の栄養を補うことができます。②心白粒や胴割粒の発生を抑えることができます。

★完全落水の目安は、玄米の大きさが決まる「出穂後30日以降」にしましょう。

※土壤を乾燥させると地力窒素発現量が抑制されてしまいます。

コシヒカリの仕上げかん水は9月1日～9月7日に行い登熟向上！

⑤適期刈取り作業で品質確保!

(詳細9月参照)

必ずほ場ごとに粉の黄化状況を確認し、適期刈取り作業に努めましょう。

○刈取り目安

- ・1穂の基部に、緑色の粉が一部残っているとき
- ・出穂期から積算気温は、コシヒカリ1000°C・こしいぶき975°Cを目安とする
- ・刈遅れは「基部未熟粒」「胴割粒」が増加し、食味と佐渡米の評価を落してしまいます



○クレームゼロに仕上げて佐渡米の信頼確保を！

- ・コンタミ防止（多品種・異物混入）の徹底！
- ・作業前には必ず作業所内の掃除徹底（異物混入防止）
- ・食品（粉・玄米）と一緒に肥料や灯油等の保管は厳禁！（におい移り防止）

⑥総合的な土づくり(ケイ酸資材を中心とした)

(詳細10月・11月・12月参照)

○土づくりの目的

「根の活力を高める」ための総合的な取組みとして、有機質の施用や土づくり資材・稻わらの腐熟促進資材等を活用し、保肥力・保水力の改善を図り「土の力」を高めることができます

気象変動に強い稲づくり～ケイ酸肥料の活用～

ケイ酸効果ポイント① 高温障害・心白粒軽減

『ケイ酸施用で根張り充実!根の活性を高めます!』

- ・高温条件では、根の活力が低下してしまいますが、「ケイ酸」を施用することにより根張りをよくして丈夫な稻体になります。
- ・ケイ酸の施用した稻は蒸散が活発化し葉の温度が低下（クーラー効果）するため、高温によるストレスを和らげます。

ケイ酸効果ポイント② 登熟不足対策

- ・ケイ酸は受光態勢を良くし光合成を活発化させる働きがあるため、登熟が高まります。

⑦田面の均平化・整地の実践

(詳細3月参照)

ほ場の均平化・耕盤の維持

- ・田面の凹凸は整地し、深く大きな凹部は砂等を投入して修復しましょう
- ・過度な「耕起」・「代かき」と作業機による重複した旋回 ⇒ 耕盤崩壊へ繋がる！回復するには数年必要！！
- ・耕起はなるべくほ場が乾いた状態で実施し、作業機の沈み込みを考慮し耕深を一定にしましょう
- ・代かき水位に留意し均平を見ましょう

佐渡コシヒカリ栽培基準（5割減・減栽培 平場版）

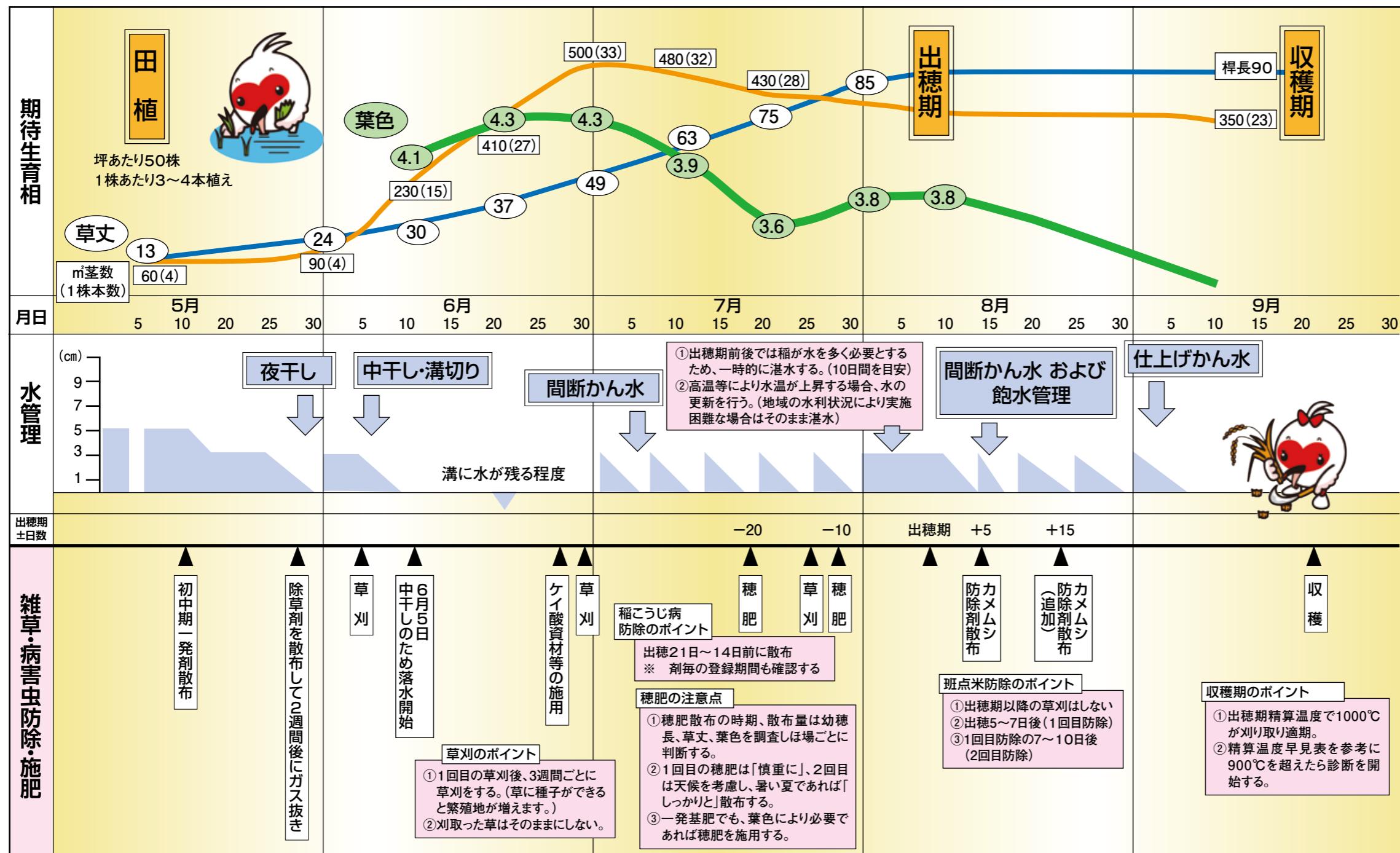
令和元年12月改正

【生育目標】

		5月	6月			7月			8月
		30日	10日	20日	30日	10日	20日	30日	10日
草丈	cm	24	30	37	49	63	75	85	—
茎数	本/m ²	90	230	410	500	480	430	400	360
	1株本数	6	15	27	33	32	28	26	24
葉数	枚(齡)	5.3	7.2	8.7	10.0	11.0	12.0	13.0	13.0
葉色	カラースケール(单葉) (葉緑素計[SPAD])	—	4.1	4.3	4.3	3.9	3.6	3.8	3.8
		(—)	(37.0)	(39.0)	(39.0)	(36.0)	(33.0)	(33.0)	(33.0)

【栽培基準改正のポイント】

- 「コンパクトな稲づくり」を目標に m^2 当たり28,000粒/ m^2 に設定
 - 最高分けつ期(6月30日)の茎数目標を500本/ m^2 に設定
 - 中干し開始時期(落水開始)を移植後30日に設定



【收量構成要素】

	目標
収量	510kg/10a
穂数	350本/ m^2
1穂粒数	80粒
m^2 当たり粒数	28,000粒/ m^2
登熟歩合	85%
千粒重	21.5g

【高品質・良食味の指導】

	目標
品質	1等
整粒歩合	80%以上
適正水分	15%
玄米タンパク含有率 (水分15%換算)	6.0%以下